

本町で5人目 前苫前町長の久保田徳満氏が名誉町民に 12月3日(火)に名誉町民章贈呈式実施

前苫前町長の久保田徳満さんが名誉町民に決定され、12月3日(火)とままえ温泉ふわつとで名誉町民章贈呈式が行われた。

久保田さんは昭和27年5月に役場に奉職、昭和59年に水産商工課長となり、昭和62年に退職、その年の町長選に立候補し、当選。平成15年までの4期16年町政を担当した。

その間、公営住宅整備や古丹別地区の流雪溝の供用開始、農業では国営総合かんがい排水事業、農業用排水施設・道路の整備を、漁業では苫前漁港の近代化、育てる漁業の推進を、観光では新日本海地域交流センターのオープン、シーフロントパークの整備、そして大規模風力発電プロジェクトのほか、高齢者施設の整備、地域医療施設の確保などの功績が認められ、平成25年9月25日の町議会において満場一致の同意を得て、名誉町民の称号が贈られることが決



本町の名誉町民

1	川村 秀治さん(故人)	元 苫 前 町 長
2	瀬川 正一さん(故人)	元町議会議長
3	石井 秀弘さん(故人)	元町議会議長
4	名畑 隆雄さん	元 苫 前 町 長
5	久保田徳満さん	前 苫 前 町 長

(上段より決定順)



この日の贈呈式・受章祝賀会には来賓などあわせて137名が出席した。

主催者の森町長は「久保田様のこれまでの功績に敬意と感謝を申し上げたい。これまでのご労苦をねぎらい会場の皆様で祝福したいと思う。これからも町政になお一層のご指導ご協力をいただきたい」と挨拶。

名誉町民章が贈呈された後、星野恭司町議会議長は「温厚で誠実な久保田さんは名誉町民に最適と思う。町政発展のためのこれまでの尽力に深く敬意と感謝を申し上げ、名誉町民の受章を心からお祝いしたい」と祝辞を述べた。

花束や記念品贈呈の後、受章記念スピーチで久保田さんは「自分は名誉町民の器ではないためとても躊躇したが、皆様の判断とご厚意に背を向けることができないと思い、受章を決意した。これまでたくさんのご助言やご指導などに改めて感謝申し上げます」と述べた。

本町の名誉町民は久保田さんで5人目となる。

地域の実情に沿った避難計画のために ～津波避難計画のためのワークショップ開催～



11月8日(金)に役場大会議室で津波避難計画のためのワークショップが、沿岸部地域の住民などあわせて21名が参加し開催された。現在町では「津波避難計画」を策定するため事務を進めているが、避難場所や経路、方法などの意見を出し合い、地域の実情にあった計画とするために実施されたもの。

担当課からは「より実効性のあるものとなるよう、たくさんの方の意見を出していただき反映していきたい」と挨拶した。

沿岸地区の各代表者はそれぞれ別の地区に分かれ、よりよい計画のために、「この避難場所はよくない。この場所がよい」など互いの意見を交換し、計画づくりを進めていた。

試合が始まれば、真剣そのもの ～町民フットサルフェスティバル2013～



体力づくりと地域交流を目的に、この時期に開催している町民フットサルフェスティバル2013が11月9日(土)にスポーツセンターで開催され、7チーム約60名が真剣勝負を繰り広げた。

敗者復活戦ありのトーナメント戦で行われた試合では、各チーム一進一退の好ゲームが行われ、ゲーム前は和気あいあいと話しているが、ゲームになれば真剣勝負。

シユートを放つ度に、会場からは歓声と溜息があがっていた。羽幌高校生徒がメンバーのヤナギーズが1回戦敗退も、敗者復活戦で勝ち上がり、見事初優勝を飾った。

プロの演技に、拍手と笑い！ ～あとは野となれ山となれ～



11月10日(日)公民館で、とままえ舞台鑑賞友の会主催による演劇「あとは野となれ山となれ」の公演が行われ、俳優の宇梶剛志さんや竹下景子さんの演技を見ようと約320名の来場があった。

離婚覚悟で家を飛び出した主婦が、飛び込んだのはお気に入りの大衆演劇の旅一座。その座長と女座員が繰り広げる同居生活を描いた作品。

宇梶さんと竹下さんの殺陣(たて)のシーンでは、コミカルな二人の演技に拍手と笑いが起こっていた。

カーテンコールでは主演の宇梶さんから「多くの拍手をいただき、苦前町の皆さんの温かさを感じた」と挨拶があった。

児童・生徒が大活躍の1年 ～文化協会・体育協会表彰と交流の集い～

11月15日(金)とままえ温泉ふわつとで、表彰と交流の集い実行委員会主催による平成25年度の文化協会・体育協会表彰と交流の集いが約150名の参加で開催された。

この集いは、平成25年度に町内で文化活動・スポーツ活動において貢献・活躍した人を表彰するとともに、文化・体育協会相互の交流を深めることを目的に開催されているもの。

今年、文化協会では1団体2個人が、体育協会では2団体8個人が表彰を受けたが、全表彰者の4分の3にあたる10名が小・中学生、高校生で各種コンクールや大会で活躍した1年だったようだ。

受賞者を代表して、文化



振興賞を受賞した「とままえ舞台鑑賞友の会」の池田民治副会長は「今回の表彰も町民の皆様のご支援やご協力のおかげと感謝している。今後もよい演劇やコンサートを多くの町民の皆様に見ていただけるよう、また町の文化向上のために努めていきたい」と述べた。

この後祝賀会が開催され、受賞者への祝福と団体同士相互の交流が図られた。

《体育協会表彰》

スポーツ奨励賞 羽幌高校ラグビー部
(苫前町出身者)
本間 大雅くん・白府 宏太くん
玉川 智也くん・川村 巧くん
岡田 郭豊くん・鈴木 章太くん
スポーツ特別賞 苫前町野球少年団
(苫前サンダース)
スポーツ特別賞 前川 幹也くん
スポーツ特別賞 能登 雄大くん

《文化協会表彰》

文化振興賞 とままえ舞台鑑賞友の会
文化特別賞 横内 豪くん
文化特別賞 島田 宗一郎くん
《体育協会表彰》
スポーツ振興賞 中塚 公彦さん
スポーツ振興賞 佐々木 久子さん
スポーツ奨励賞 坂川 寛くん
スポーツ奨励賞 田井 脩太郎くん
スポーツ奨励賞 渡部 京佳さん

地域の人たちも楽しそうに体験 ～古小・苫小フェス～



小学校のそれぞれの学年が学習の成果などを用いて出店を開き、保護者や祖父母、地域住民を招待し楽しんでいただくことを目的に行われている両小学校のフェスティバルが開催され、多くの人が楽しんだ。

11月10日(日)には古丹別小(長谷川敏之校長)フェスティバルが開催された。同校では1、6年生が縦割り班として活動し、体育館や図工室・集会室を会場に頭のうえにボールを乗せそのタイムの速さを競う「アイスクリムレース」や、並べられた空き缶をいくつ倒すことができるかを競う「缶倒しゲーム」などの出店が開店し、幼児や保護者、地域の住民などが体験し、楽しんでいた。

また、PTAによる喫茶店や焼き鳥の有料の出店、学校園で採れた野菜を使っ

た味噌汁の無料配布なども行われ、訪れた人たちはとても喜び味わっていた。

また、11月16日(土)にはフェスティバルin苫前小学校(高谷典義校長)が開校130周年記念として実施された。

開会式では130周年を記念してタイムカプセルへの収納式が行われ、10年後への児童に向けて、現在の学校の状況を知らせる画像や説明、作文等がカプセルに収められた。

その後、低・中・高学年の3組に分かれ、生活科の活動記録やゲーム・クイズなどがある1・2年生の「秋のたからものランド」や5・6年生による「お化け屋敷」などのほか、PTAによる「昔の遊び体験」や「フロアカーリング」などの出店も賑わいを見せていた。



小学生・中学生ともに最優秀賞！～社会を明るくする運動標語コンクール～

【小学校の部】

最優秀賞(古丹別小6年) 西村 歩優さん
「やめようと 勇気を出して 言うてみよう」
優秀賞(苦前小6年) 坂川 晃寛くん
作(古丹別小6年) 加納 岳斗くん
佳作(苦前小4年) 岩井 虹海さん

【中学校の部】

最優秀賞(苦前中1年) 成川 利樹也くん
「あいさつで どんどんつなごう 地域の輪」
優秀賞(古丹別中3年) 鴨田 葉里さん
優秀賞(苦前中1年) 石川 篤司くん
佳作(苦前中2年) 鈴木 蓮くん
佳作(古丹別中1年) 伊藤 行平くん

野崎さんは「多くの入選者が出て大変嬉しく思う」と挨拶した後、保護司の仕事について説明し、理解を深めた。

11月18日(月)苦前中学校(富田正夫校長)体育館で、第63回社会を明るくする運動標語コンクール入選者への賞状等の伝達が行われた。羽幌地区保護司会苦前支部の野崎信輝さんと阿部俊一さんが来校し、同校から入選した3名に野崎さんより賞状と記念品の授与を行った。



バランスのよい食事を～骨骨(こつこつ)ヘルシー教室で調理～



11月20日(水)公民館で生活改善協議会(間宮由紀子会長)主催の骨骨(こつこつ)ヘルシー教室が、一般住民など約20名の参加で開催された。

この教室は、乳製品に多く含まれるカルシウムをとり生活習慣病の予防と健康寿命を延ばすことを目的で開催されているもので、今回は「変わりいなり」や「豚肉と白菜の重ね蒸し焼き」などあわせて4品の調理実習と軽運動が行われた。調理実習では、同協議会会員が料理のポイントについて伝え、参加者がポイントを確認しつつ慣れた手つきで調理を進め、試食ではできた料理を満足そうな表情で試食していた。

午後からは軽運動として正しい動きのラジオ体操が行われ、充実した時間を過ごしているようだった。

やくばのみなさん、いつもありがとう～苦前保育園児が勤労感謝の訪問～

岩崎志音ちゃんが「とままえちようのたくさんのひとたちのために、はたらいてくださいありがとうございます」と感謝の作文を読みます。副町長に手渡した。

山田副町長は「これから苦前町のためになるような仕事を頑張ってください。皆さんもカゼをひかないよう元気に頑張ってください」と述べお礼のお土産を渡すと、園児たちからは「どうもありがとう」と元気な声が返ってきた。

この後、園児たちは町内の消防や郵便局などをまわり、勤労感謝の慰問を行った。

11月22日(金)役場で勤労感謝の日を前にした苦前保育園(青木久美子園長)の藤組園児12名による職場訪問が行われた。



ご家庭における節電のお願い

平素より弊社事業にご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。

この冬におきましては、泊発電所の再稼働が見込めない場合を想定し、さまざまな電力需給対策に最大限取り組むことにより、最低限必要な供給予備率は確保できる見通しです。

しかしながら、発電設備の計画外停止リスクや、冬の北海道における万が一の電力需給のひっ迫は、生命、安全を脅かす可能性があることを踏まえ、多重的な対策を講じてまいります。

お客さまには大変なご不便とご迷惑をおかけいたしますが、引き続き節電にご協力を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



ご家庭で節電をお願いしたい期間・時間帯・量

12月9日(月)～3月7日(金)の平日*1
16時～21時において

6%以上*2の節電にご協力をお願いします。

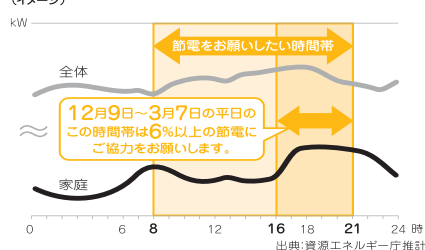
*1 12月30日(月)～1月3日(金)を除く

*2 2010年度の実績との比較

●上記の期間・時間帯を除く12月2日(月)～3月31日(月)の平日8時～21時においても、数値目標は設けませんが、無理のない節電にご協力をお願いします。

●冬季の北海道は夜間も電力需要が高い水準にあるため、上記以外の時間帯についても、可能な範囲での節電をお願いします。

冬の北海道における平日のご家庭での電気の使われ方(イメージ)

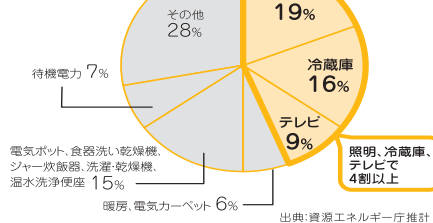


節電にご協力いただきたい電気製品

照明、冷蔵庫、テレビ等を中心に、普段お使いの電気製品について節電のご協力をお願いします。また、外出の際には待機電力等の削減もお願いします。

ご家庭では冬の19時に平均で約1,000Wの電力を消費しており、**照明、冷蔵庫、テレビで4割以上**を占めています。外出中の場合でも、冷蔵庫、温水洗浄便座、待機電力等により、平均で約250Wの電力を消費しています。

冬のご家庭での消費電力(19時)



節電に関するお問い合わせは北海道電力(株) 羽幌営業所(☎0164-6211047)